

SINCE1938

未来のために、 +タクマの価値を。

創業者・田熊常吉が現在のタクマの前身である「田熊汽罐製造株式会社」を設立して80年余り。田熊汽罐の創業精神である「汽罐報国」、ボイラ（汽罐）の製造を通じて社会や環境に貢献（報国）するという理念は、国産初のボイラの発明に心血を注いだ常吉の想いであり、時を超えて当社の経営理念の礎となっています。これからも当社は、創業より培った独自の燃焼技術、ごみ処理技術、水処理技術などを生かしたプラントを通じ、世の中に新たな価値を提供しつづけます。



操業開始時の播磨工場

創業者

“汽罐王”田熊常吉

当社の創業者である田熊常吉は、日本初の純国産水管式ボイラ「タクマ式汽罐」を発明し、国内産業の発展に大きく貢献しました。

常吉がボイラ発明をスタートしたのは彼が40歳になる頃です。ボイラについては専門書の用語もわからない素人の常吉が、“汽罐王”と呼ばれ、明治・大正期の日本十大発明家に名を連ね当社を創業するまでには、多くの困難と、それを乗り越えるべく重ねた試行錯誤がありました。

